

群馬県繊維工業試験場の機能充実並びに 敷地内の再整備・有効活用について（改訂継続）

群馬県繊維工業試験場は、全国唯一の繊維専門の公共試験研究機関であり、繊維業者の課題解決に大きな支援をいただいております。

繊維業界では閉塞的な状況が続いておりますが、こうした状況を打破し、桐生市の繊維関連企業が国内市場を拡大し、海外市場を取込むためには、革新的技術による新たな価値の創出や、地域のブランド化が必要となります。

この課題の解決のためにも同試験場の存在意義は年々高められておりますので、引き続いたの最新機器導入による設備の整備、研究員等の人員配置拡充など、更なる機能充実を図るための積極的かつ充実した支援体制が取られるよう、群馬県に呼びかけていただくことを切望いたします。

また、敷地内には、昭和37年に開設された群馬地方発明センターの建物が残存しておりますが、その役割を終えた現在は廃墟化し、周辺の景観をも損ねております。

今年度、桐生市の新規事業として同センターの跡地活用事業（地歴調査）を実施していただきますが、引き続き跡地の有効活用について、検討を進めていただきますよう、併せて要望いたします。

桐生市からの回答

群馬県繊維工業試験場は、全国で唯一の繊維に特化した公設試験場であり、繊維関連の中小企業が多い本市にとって、極めて重要な施設であると認識しております。市ではこれまでも、同試験場と市内繊維関連企業との連携推進を図りながら、共同研究開発や技術指導、人材養成等の取り組みに対して支援を行ってまいりました。本年度に創設した「産学官共同研究推進事業補助金」についても、同試験場と市内企業との共同研究案件が多数採択されたところであり、こうした取り組みが同試験場の存在意義を更に高める一助になっていると考えております。

群馬県においても、新規機器の導入や研究員の資質向上等、同試験場の機能充実に努めていると伺っておりますので、市といたしましては、引き続き、存在意義の向上等を促進しながら、更なる機能拡充に向けての要望等も行っていきたいと考えております。

なお、同試験場と同一敷地内に存在する老朽化施設については、建物解体に向けた取り組みを開始したところであり、今年度は解体の準備段階として地歴調査を実施しております。当該地については、群馬県の施設も混在していることから、解体方法や費用負担等について協議を行っているところですが、建物解体の早期実現に努めるとともに、跡地の有効活用や同試験場の利便性向上等についても、引き続き検討を進めてまいりたいと考えております。

〔回答担当〕 産業経済部商工振興課工業労政担当